

M3T-CC32R ご使用上のお願い

M32Rファミリ用クロスツールキット M3T-CC32R の使用上の注意事項を連絡します。

- 変数のアドレスを、その変数とは異なる型へのポインタに変換してそれを間接演算(メモリに対して読み書き)する場合の注意事項

1. 該当製品

M3T-CC32R V.4.00 Release 1 ~ V.4.10 Release 1

2. 内容

ある変数のアドレスを、その変数とは異なる型へのポインタに変換し、それを間接演算(メモリに対して読み書き)するCソースをコンパイルした場合、エラーが出力されるか、または不正なコードが生成されます。

cg32R: "...", line xx: internal error: illegal IL, illegal lhs of ASSIGN
(エラーメッセージの "..." にはファイル名が、xx には行番号が表示されます。)

2.1 発生条件

以下6点の条件を全て満たす場合に発生します。

- (1) コンパイル時に -O4の最適化と同じ内容を含む最適化オプションを指定している。
(-O4, -O5, -O6, -O7いずれかの指定が有効になっているか、-Otimeまたは-Ospaceを単独で指定している。)
- (2) ある変数が、整数型、浮動小数点型またはポインタ型である。
- (3) (2)の変数のアドレスをキャストして、元の変数の型とは異なる型へのポインタに変換している。
- (4) (3)のポインタを使って次の(a)~(c)いずれかに該当する間接演算を行っている。
 - (a) ポインタ間接演算(*演算子)
 - (b) 構造体ポインタ演算(->演算子)
※ 先頭の構造体メンバを指定する場合に限る。

(c) 共用体ポインタ演算(->演算子)

(5) (2)の変数と(4)の間接演算オブジェクトは、サイズが同じでかつ、型が異なり、どちらもvolatile修飾されていない。

(6) (4)の間接演算オブジェクトを、次の(a)~(h)に示すいずれかの位置に記述している。ただし、(e)~(h)は、(2)の変数と(4)の間接演算オブジェクトのどちらかがfloat型の場合に限る。

(a) 代入演算子(=)の左辺でかつ、他の演算子を使用していない。

(b) インクリメント演算子(++)またはデクリメント演算子(--のオペランドでかつ、他の演算子を使用していない。

(c) 代入演算子(=)の右辺でかつ、他の演算子を使用していない。
ただし、左辺と右辺の型が異なる場合は、(2)の変数と(4)の間接演算オブジェクトのどちらかがfloat型の場合に限る。

(d) 代入演算子およびメンバ演算子(->または.)を除く、2項演算子の右側のオペランドでかつ、そのサイズが4バイトである。

(e) 代入演算子およびメンバ演算子を除く、2項演算子の左側のオペランド。

(f) &, sizeofを除く、前置演算子のオペランド。

(g) 制御文(for, while, do, if, switch, return)の制御式、継続条件式および式。

(h) 関数の実引数。

補足：

条件の組み合わせにより発生する問題内容が異なります。

発生条件の(6)に示している(a),(b)あるいは(c)の左辺と右辺の型が同じ場合のいずれかに該当すると、インターナルエラーが出力され、(c)の左辺と右辺の型が異なる場合または(d)~(h)のいずれかに該当すると、不正なコードが生成されます。

2.2 発生例

[ソースファイル例1]

[sample1.c]

```
-----  
long func1(void)  
{  
    long sl;                /* 条件(2),(5) */  
    unsigned long *ptr_ul;  
    ptr_ul = (unsigned long *) &sl; /* 条件(3) */  
    *ptr_ul = 0x80000000;      /* 条件(4)(a),(5),(6)(a) */  
    return sl;  
}
```

[ソースファイル例2]

[sample2.c]

```
signed char sc;          /* 条件(2),(5) */
unsigned char uc;
struct uc_str {
    unsigned char uc;
};
void
func2(void)
{
    struct uc_str *ptr_ucs;
    ptr_ucs = (struct uc_str *) &sc; /* 条件(3) */
    uc = ptr_ucs->uc;          /* 条件(4)(b),(5),(6)(c) */
}
```

[ソースファイル例3]

[sample3.c]

```
long s1, s2;
void
func3(unsigned long ul) /* 条件(2),(5) */
{
    long *ptr_sl = (long*)&ul; /* 条件(3) */
    s1 = s2 + *ptr_sl;        /* 条件(4)(a),(5),(6)(d) */
}
```

[ソースファイル例4]

[sample4.c]

```
long
func4(float f)          /* 条件(2),(5) */
{
    long *ptr_sl;
    ptr_sl = (long *) &f; /* 条件(3) */
    return *ptr_sl;       /* 条件(4)(a),(5),(6)(g) */
}
```

3. 回避策

(1) -O4, -O5, -O6 および -O7の最適化オプションを指定しない。-Otimeまたは-Ospaceを使用する場合は、同時に -O0,-O1,-O2,-O3のいずれかを指定する。

(2) 発生条件(2)の変数または、(4)の間接演算オブジェクトにvolatile修飾を付ける。

[ソースファイル例1(sample1.c)の変更例]

```
-----  
long func1(void)  
{  
    long sl;  
    volatile unsigned long *ptr_ul; /* volatileにする */  
    ptr_ul = (volatile unsigned long *) &sl;  
    *ptr_ul = 0x80000000;  
    return sl;  
}  
-----
```

[ソースファイル例2(sample2.c)の変更例]

[sample2.c]

```
-----  
volatile signed char sc;          /* volatileにする */  
unsigned char uc;  
struct uc_str {  
    unsigned char uc;  
};  
void  
func2(void)  
{  
    struct uc_str *ptr_ucs;  
    ptr_ucs = (struct uc_str *) &sc;  
    uc = ptr_ucs->uc;  
}  
-----
```

[ソースファイル例3(sample3.c)の変更例]

```
-----  
long s1, s2;  
void  
func3(volatile unsigned long ul) /* volatileにする */  
{  
    long *ptr_sl = (long*)&ul;  
}
```

```
s1 = s2 + *ptr_sl;  
}
```

[ソースファイル例4(sample4.c)の変更例]

```
long  
func4(float f)  
{  
    volatile long *ptr_sl;    /* volatileにする */  
    ptr_sl = (volatile long *) &f;  
    return *ptr_sl;  
}
```

4. 恒久対策

本問題は、次期バージョンで改修する予定です。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

© 2010-2016 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.